

すもうの授業



すもうの授業のはじまり

この授業は、初めからすもうをやるうと思ってやったものではありません。たまたま相撲の地方巡業が市の体育館で開かれ、それを観に行った保護者・子どもがいたこと。市内の6年生の合同運動会があって、つなひきの競技中に見事に綱が切れ、その綱で運動場の一角に土俵をつくったこと。過去に調べても分からなかった「腰折田(こしおれだ)」という相撲に由来する地名が30年を経て発見できたこと。このようなことが重なって、偶然行ったすもうの授業なのです。

体育の授業は、学習指導要領に例示された教材を行うことになっていますが、このすもうの授業のように、何もないところから授業が生まれる場合もあります。すもうは、学習指導要領で言うと、「体ほぐし」の一部になるのかもしれませんが、それを目指して行った授業では決してありません。すもうのルールは単純明快で、勝ち負けがはっきりしています。この勝ち負けを巡る様々な経験を低学年のうちにたっぷりさせようと計画したものです。自由な発想で授業を考え、プランを立てて試してみる。このような実践研究のおもしろさがすもうの授業にはあります。

<授業のねらい>

- ・さまざまなすもうのやり方を知り、勝ち負けとはどういうことなのかを積極的に体験させる。
- ・すもうの文化的な内容に触れ、興味を持たせる。

・教育現場では「勝ち負けにこだわらず」とよく言われます。しかし、これは勝ち負けとは何なのかを考えさせる体験を閉ざしているという見方もできます。勝ち負けを巡って、それぞれの思いをおもいきり出させ、勝った喜びや負けた悔しさを学んでいくのも大切な学習であると考えます。やるからには、始めから諦めずに「勝ち負けにこだわって」ほしいと思いを込めて行いました。

・今の子どもたちは、身体接触の機会が余りにも少ないのも問題だと感じています。体を触れ合って力比べをしたり、相手の息づかいや温もりを感じたり、このような経験が極端に不足しています。力の入れ具合が分からないために、高学年になって、けんかで相手に大ケガをさせてしまうことがあります。手加減ということが分からないのです。力を加えたり、力を受けたりすることを学ぶ教材としてすもうは適しています。ただ、男女関係なくすもうができるのも低学年のうちです。低学年でしかできない大切な学習であると考えました。

授業計画（全8時間）

時	学習内容	具体的な学習活動
1	土俵づくり	土俵をつくる。(半径2,2m)
2	グループ内での対抗戦	相撲のルールについて説明。
3	・しり相撲	相撲、しり相撲、ケンケン相撲でグループ内の順位(横綱～前頭まで)をつける。
4	・ケンケン相撲 ・本相撲	・3回勝負で2勝した方が勝ち。 ・3つの土俵で2グループずつ(ローテーション)
5	グループ対抗戦	相撲、ケンケン相撲、グループ同士の競い合い
6	・ランク下の者が自分の好きな	(対戦はランク同士)
7	相撲の方法を選べる。	※「腰折田」の話をする。 ※この間、すもう(九州場所)を観てくる宿題。知りたいこと分からないことをまとめ、相撲協会に手紙を出す。⇒2週間後に返事が来る。
8・9	トーナメント戦	まとめの試合を行う。
10	授業のまとめ	授業を振り返る。

能力差をどう克服するか？→相撲は体の大きい者がほとんどの場合は勝つので、勝つチャンス
の生まれる、ケンケン、しりなどの競い方を用意した。

①土俵をつくる



直径4mの円を描き、その内側を、くわ、スコップなどで耕す。



横が砂場なので、バケツで砂を運ぶ。(子どもの作業ここまで)



切れた綱を体育倉庫から運び、適当な長さに切る。



土俵の周囲を綱で囲む。



ペグを打って、綱を固定する。



土俵の完成

すもうをしよう

その① ーグループですもうたいけつー
2年 組(名前)

☆すもうをしよう
すもうといっても、本ずもうだけではなく、ケンケンずもう、しりずもうもあります。
2つのグループごとに、この3つのすもうを一時間ずつ行います。

本ずもう	ケンケンずもう	しりずもう
		
土ひょうの外にでるか、 体の一ぶがついたらまけ。	土ひょうの外に出るか、 まげた足がついたらまけ。	土ひょうの外に出るか、 体の一ぶがついたらまけ。

○今日やるのは
 本ずもう 1・2はん
 ケンケンずもう 3・4はん
 しりずもう 5・6はん

○グループでたいせんしよう。(すもうのけっか)

あいてー しじぶん					
	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
	かち まけ	かち まけ	かち まけ	かち まけ	かち まけ

※きろくのしかた かちー○ まけー●

☆あなたのせいせきは
 よこづな おおぜき せきわけ こむすび まえがしら まえがしら
 あなたは 横綱 大関 関脇 小結 前頭 前頭 です。

②グループ内での対抗戦

- ・本ずもう（土俵）、ケンケンずもう、しりずもう（地面に円を描く）という3つの場を作り、2グループずつ、グループ内での対戦を行う。
- ・3回勝負で2回勝ったらその試合の勝ちとする。
- ・勝ち数の多い者から、横綱、大関、関脇、小結、前頭とするようにした。



すもうをしよう その②

ーグループですもうたいけつー
2年 組(名前)

☆すもうをしよう
すもうといっても、本ずもうだけではなく、ケンケンずもう、かた足ずもうもあります。
2つのグループごとに、この3つのすもうを一時間ずつ行います。

本ずもう	ケンケンずもう	しりずもう
		
土ひょうの外にでるか、 体の一ぶがついたらまけ。	土ひょうの外に出るか、 まげた足がついたらまけ。	土ひょうの外に出るか、 体の一ぶがついたらまけ。

○今日やるのは

本ずもう	ケンケンずもう	しりずもう
5・6はん	1・2はん	3・4はん

○グループでたいせんしよう。(すもうのけっか)

あいてー ！じぶん					
	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
	かち まけ	かち まけ	かち まけ	かち まけ	かち まけ

※きろくのしかた かちー○ まけー●

☆あなたのせいせきは

しょう	はい
よこづな あなたは 横綱	おおぜき 大関
せきわけ 関脇	こむすび 小結
まえがしら 前頭	まえがしら 前頭

です。

グループ内での対抗戦



本ずもう



ケンケンずもう



しりずもう

グループ内対抗戦



すもうをしよう その④ ーグループたいこうせんー

2年 組(名前)

○グループたいこうせんのやり方

- ・たいせんは、同じかどうし(たとえば横綱は横綱どうし)でたいせんします。
- ・力の同じときは、本ずもうを行います。
- ・力のさがあるときは、下の位の人がやり方をえらべます。



本ずもう



ケンケンずもう



しりずもう

☆1回せん(1ばん 対 2はん)

☆2回せん(3ばん 対 4はん)

なまえ	勝敗

勝敗	なまえ

なまえ	勝敗

勝敗	なまえ

勝 敗 で
 勝ち 負け ひきわけ

勝 敗 で
 勝ち 負け ひきわけ

☆3回せん(5はん 対 6ばん)

なまえ	勝敗

勝敗	なまえ

勝 敗 で
 勝ち 負け ひきわけ

○今日のじゆぎょうのかんそう

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

グループ対抗戦



- ・前時までは、3つの場所で行っていたが、この時間からは1つの土俵で行う。
- ・3回勝負で2回勝ったらその試合の勝ちとする。
- ・同じ力同士(例えば、横綱同士)で対戦した。
- ・ランクが下の者は、自分の得意とする相撲を選ぶことができる。

○グループたいこうせんのやり方
・たいせんは、同じかどうし(たとえば横綱は横綱どうし)でたいせんします。
・力の同じときは、本ずもうを行います。
・力のさがあるときは、下のくらいの人がやり方をえらべます。



☆4回せん たい (1ばん 対 4はん) (2はん 対 6ばん) (3ばん 対 5はん)

なまえ	勝敗	勝敗	なまえ	なまえ	勝敗	勝敗	なまえ	なまえ	勝敗	勝敗	なまえ
勝	敗	で		勝	敗	で		勝	敗	で	
から	まけ	ひきわけ		から	まけ	ひきわけ		から	まけ	ひきわけ	

☆5回せん たい (4はん 対 5はん) (1ばん 対 6ばん) (2はん 対 3ばん)

なまえ	勝敗	勝敗	なまえ	なまえ	勝敗	勝敗	なまえ	なまえ	勝敗	勝敗	なまえ
勝	敗	で		勝	敗	で		勝	敗	で	
から	まけ	ひきわけ		から	まけ	ひきわけ		から	まけ	ひきわけ	

グループ対抗戦



- ・ほとんどが本相撲を選んでおり、ケンケン相撲、しり相撲は少なかった。
- ・グループ内で相撲を行ったときは、まわしがないので、手と手を組んで相撲をとっていた。
- ・何回かやっていると、体を相手に当ててとる子どもも出てきた。また、引いたり、相手が出てきたところを投げたりする場面もあった。



腰折田の話

10月中旬に、香芝市に大相撲地方巡業がやってきて「香芝場所」が市の体育館で開かれました。「腰折田」（こしおれだ）に記念碑が建てられ、それを記念しての地方巡業でした。

【名称】平成29年秋巡業 大相撲香芝場所

【日時】平成29年10月19日(木) 8:00～15:00

【場所】香芝市総合体育館

【主催】相撲発祥の地奈良実行委員会 巡業勧進元

【内容】8:00 開場～公開稽古

11:00頃 人気力士とちびっこの稽古

11:30頃 幕下以下の取組開始／初切、
相撲甚句、やぐら太鼓実演

13:00頃 十両土俵入り、十両取組

13:30頃 幕内、横綱土俵入り、幕内取組、
弓取り式

15:00 打ち出し(終了)





相撲発祥伝承之地

「腰折田」(こしおれた)

2017年設置

日本書紀の記述

「垂仁天皇七年七月七日に出雲の土師部の祖とされる野見宿禰が、大和で剛力無双をうたわれた當麻蹶速と相撲をとって勝ち、宿禰は蹶速の腰を折ってしまったので、蹶速の倒れたところが腰折田という地字名で残っていたという記録も見える。」(スポーツ大辞典)

野見宿禰(のみのすくね)

當麻蹶速(たいまのけはや)

が相撲をとって、野見宿禰が勝った。

當麻蹶速の腰を折ってしまったので腰折田という

こし おれ だ だん しょう せう らい 腰折田伝承の由来

The origin of a story of Koshioreda

香芝市と和護

当地は香森神社と野見宿禰が方くらへを行ったときから「腰折田」伝承地で、付近には両人がまわしを争ったところ、まわしを渡ったところとも伝えられる「まわし池」があります。

本邦では、古くから年忌天皇に奉納する古物競りが行われていた大祝山(大祝山)があり、また、近世の『行状記』には、尾崎寺・高森・藤原・鎌田・五住堂など、村名を冠した和護屋がしばしば登場します。付近の寺院や墓地などには古い力士墓が残されており、近世以降、二上広慶の村々では和護が相伝盛んであったことがわかります。

土俵の大きさ

土俵の大きさは、江戸時代の土俵が2m94cm(13尺)で行われていたことから、当時の体験をしてみようために、現在の2m55cm(15尺)より小さくしています。

Kashiba City and Sumo

This is a traditional area known as Kashibonaka. "The field of broken bones". It is believed to be where Tama no Kabura and Natsu no Yukawa tested their strength against one another. Nearby you will find Maruishi In Pond, where it is said that these two sumo wrestlers put an end washed their mawashi, or sumo loincloth.

Kashiba City is home to the Otagaki-ryugyaku Inya Shrine (Amatsubo), where sumo performances have been held since the Edo-Genroku period since the olden days. In addition, some groups bearing the names of villages, such as Ryukokoji, Tamao, Katsuno, Kamada, and Gendo, often appear in the Takasago Diary of the modern period. Old records of some sumo bouts can be found in the surrounding temple and cemetery, which tells us that sumo must have been very popular during the modern period in these villages, which was based on the fact of Mr. Naga.

Size of the Sumo Ring

In the Edo Period (1603-1868), the diameter of the sumo ring was 2.94 m (12.9 ft.); today, it is 2.55 m (14.9 ft.). This ring has been made smaller to allow you to experience how it was in those days.

和護発祥伝承の地 香芝市・葛城市・桜井市 The place of Sumo origin Kashiba city, Kamagari city, Sakurai city



一、文和ノ節、香森ノ神に香森ノ願違という争を
始め戦したと云うエピソードがあった。

In the Tamao Village of Yamato, there was a man named Tama no Kabura, who boasted of his strength, claiming that he could smother sumo.



二、和護の由来ノ神に依り、野見ノ宿禰という相方が
『オレこそが、日本一強い男!』と云う争いをしてきた。

However, another man of strength, Natsu no Yukawa, who lived in the Tamao Village of Yamato, declared, "I am the strongest man in Japan!"



三、天皇和護は、次子に足踏う一争で勝負が
ついた。アハアは勝つ争をくじかれてその場で
死んでしまった。

At Tamao Shrine, a sumo match held in the presence of the emperor, the winner was decided instantly by one kick from Sakurai, breaking Kabura's loincloth and killing him on the spot.



四、天子アハアは、和護に勝った後うびにアハアが
持っていた和護を全部、アハアに奪われた。
一それが今に残る和護の地。

As a reward, the emperor gave all the fields of Kabura to Sakurai.
"This is the Kashibonaka that will remain today."

平成二十九年十月 香芝市



遠くには万葉集にも詠われる二上山が見える。



かつては、東に100mぐらいの所にこのパネルが設置されていた。元はこのパネルだけだった。

腰折田伝承地

香芝市磯壁・良福寺付近

『日本書紀』垂仁天皇七年七月七日の条に、「當麻郷には當麻蹶速という勇敢剛力がいて、天下に敵なしと豪語していた。天皇が群臣に力くらべ(角力)をするものを求められた。そこで、出雲の野見宿禰が召され、兩人に力くらべをおさせになった。たちどころに蹶速は腰の骨を折られて死んだ。これにより、蹶速の領地が没収され宿禰に賜った。」とあります。江戸時代に編纂された地誌『大和志』には、「腰折田は良福寺にあり」とみえ、兩人の決闘の地として今に伝えられています。この伝承は、奈良時代に宮中で始まる相撲節会(七月七日)の起源とされています。なお、葛城市當麻には、伝當麻蹶速塚とされる五輪塔が祀られています。

また、野見宿禰については、同三二年七月条に、殉死の悪習にかえ陵墓に埴輪を立てることを進言し、日葉酢媛命墓に埴輪を立てたことから土師職に任じられ、天皇の喪葬を司ったとする伝承があります。

なお、出雲は現在の桜井市出雲が候補地の一つで、同地には、十二柱神社が鎮座し、野見宿禰墓とされる塚に建てられていた五輪塔が移転祭祀されています。また、同市穴師座兵主神社の摂社で宿禰を祀る相撲神社の境内には、宿禰と蹶速が相撲をとった「カタヤケシ」と呼ばれる場所があり、この地における宿禰伝承や相撲との深い関わりが注目されます。



まわし池 (狐井城山古墳)

まわし池(香芝市)

まわし池(香芝市)
當麻蹶速(たいまのけはや)と野見宿禰(のみすくね)の2人が香芝市狐井の「まわし池」(現狐井城山古墳の周濠である城池辺り)でまわしを締め、洗うなどしたとの伝説があります。



腰折田は奈良県香芝市良福寺にある。



大相撲を観てくる宿題

すもうをしよう

とくべつ

—すもうをみよう—

2年 組()はん(名前)

ばしょ きゅうしゅうばしょ

12日から大すもう11月場所(九州場所)がはじまります。12日(日)から26日(日)までの15日間、毎日すもうがあります。それで、みんなに大すもうをテレビで見ってもらって、いろんなことをはっけんしてほしいと思います。

【すもうを見た日】 月 日()

・心にのこったたいせんは…

【見ていてわかったこと】 なるほど、こうなんだ!!

【見ていてふしぎに思ったこと】 なぜ?

【大すもうをみたかんそうを書きましょう】

2017年九州場所では横綱・白鵬が優勝(14勝1敗・2場所ぶり40回目)、横綱日馬富士は初日に阿武咲、2日目に貴景勝に敗れ初日から2連敗。その後、不祥事が発覚し引退。横綱鶴竜が全休、横綱稀勢の里も4勝5敗6休。10勝すれば大関復帰となる関脇照ノ富士は、初日から4連敗。翌5日目から休場、大関復帰がなくなった。

見ていてわかったこと

- ・ざせきがかいだんのようになっていて、後ろの人が見やすいようになっていた。
- ・土ひょうは高いところにあった。
- ・太っている人ばかりだと思ったけど、やせている人もいた。
- ・いろいろなきまり手があって、学校でやっていないきまり手もあるのがわかった。
- ・「はっけよーい。のこった」と言って、すぐにたたかかっていてびっくりしました。
- ・しおを一回しかまかないと思っていたけど、何回かまくことがわかりました。
- ・立ち合いがうまくいかないとまけることがわかりました。
- ・体が大きいからと言ってかてるとはきまっていないことがわかりました。
- ・日本人だけじゃなく、ブラジル、モンゴル、ジョージアなどいろいろな国の人があいた。

ふしぎに思ったこと

- ・すもうの前にどうしてしおをまくの?
- ・どうしてちょんまげをしてるの?
- ・まわしの色はどうやってきまるのか?
- ・おすもうさんのおなかのまわりのまわしのよこについているひもがなぜついているのかなと思いました。
- ・すもうがおわった後に、かった人が何のふくろをもらっているのかわからなかった。おかねをもらっているのだろうか?
- ・おすもうさんは、なぜはだかですもうをするのか? はだかですもうをしてははずかしくないのか? はだかできむくないのか?
- ・体の大きい人と、小さい人がたいせんするのがふしぎだと思った。
- ・おすもうさんは、ぶつかり合ってけがはしないのか?

相撲協会に手紙を出す

わかったことわからないことを出させました。不思議に思ったことの多かったものが以下のようにになります。

- ① どうしてしおをまくのですか？
- ② まわしのよこについているひもは何なのですか？
- ③ まわしの色はきまっているのですか？
- ④ どうしてちょんまげをしているのですか？
- ⑤ どうしてはだかですもうをするのですか？さむくないのですか？はずかしくないのですか？
- ⑥ かったときにもらうのは何ですか？何が入っているのですか？
- ⑦ どうして土ひょうは高いのですか？あぶなくないのですか？

- ・ 出てきた感想をまとめて紹介しました。
- ・ 子どもの疑問に対しては答えられる範囲で答え、わからないことは、日本相撲協会に手紙を出して聞いてみることにしました。子どもにA4一枚にまとめてもらい、投函しました。

香芝市立下田小学校2年1組
担任 牧野満様

拝復 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

この度は丁寧なお手紙をいただきまして、誠にありがとうございます。にもかかわらず返事が送れてしまいましたこと、お詫び申し上げます。

内容を鑑みて協会の運営する相撲博物館より返事申し上げます。

学校の授業の一環として相撲を行い、しかも土俵を造られてということで大変驚きました。協会の巡業が、相撲の普及につながられていることを感じ、非常にうれしい限りです。

さて、子どもたちからの7つの質問について、別紙の通り回答申し上げます。なるべく漢字や言葉遣いなどについて配慮しましたが、難しいところは先生の方からご説明いただければ幸いです。

また、館の葛城市にある相撲館も、相撲に関する資料を収集し展示していますので、ぜひ足をお運びいただければと思います。当館とも資料のやりとりをして、お世話になっています。土俵の体験コーナーなどもあり、子どもたちも楽しんでもらえるかと思えます。

最後になりますが、この度はお問合せありがとうございました。また何かありましたらお手紙いただければ幸いです。ありがたいことに当館には多くの方から封書を含め、相撲に関して多くのお問合せをいただいております。業務の都合で時間がかかることもありますが、必ず返事をしていきます。

今後とも、よろしくお願いいたします。

季節柄、どうぞご自愛くださいませ。

敬具

2017年11月29日

公益財団法人 日本相撲協会
相撲博物館
〒130-0015 東京都墨田区横断一丁目3番2号
電話東京(3622)0366番
長瀬

別紙



①塩をまく照ノ富士（てるのふじ）



②さがりをわける石浦（いしうら）



③鶴木（にしきぎ）の夏服



④とりにくみをおえて、ちょんまげにした白鵬（はくほう）



④白鵬の大銀杏（おおいちょう）



⑤宝富士（たからふじ）の冬服



⑥けんしょうをもらった御世海（みたけうみ）

相撲博物館からの返信

相撲博物館からの返信

2週間後に返信がありました。子どもたちは大喜びでした。

香芝市立下田小学校 2年1組 32名のみんなへ

返事が遅くなってごめんなさい。この度はお手紙ありがとうございます！
相撲（すもう）に興味を持ってくれてすごくうれしいです。
綱（つな）でつくった土俵（どひょう）もしゃしんでみました。キレイにできていてすばらしいです！ケガには気をつけて、楽しんでください。

さて、7つのしつもの答えを下に書きました。写真も合わせてみてみてね。

①塩（しお）について

じぶんと土俵（どひょう）を清（きよ）めるために、塩をまきます。土俵は神聖（しんせい）なものなので、そこにあがる自分（じぶん）と土俵を清めます。

②まわしのよこのひもについて

まわしについているひもは「さがり」といいます。前をかすいみがあります。

③まわしの色について

きまりでは「黒（くろ）・紫（むらさき）色系統」となっています。テレビでほうそうするようになったころから、見た目が良いのでいろんな色がつかわれるようになりました。協会としては、黙認（もくにな）しています。

④ちゃんまげについて

江戸（えど）じだいまでは、ふつうの人もみんなちゃんまげをしていました。明治（めいじ）じだいになってちゃんまげをやめました。おすもうさんたちはちゃんまげ以外にはあわないということでやめませんでした。また、頭にかみの毛を多くすることで、頭をまもることに役立っているそうです。

ちなみに、まげには「ちゃんまげ」と「大銀杏（おおいちよう）」の2つのタイプがあります。いちにんまえのおすもうさんは、とりくみの時に「大銀杏」にします。横綱（よこづな）・白鵬（はくほう）もふだんは、「ちゃんまげ」です。

⑤おすもうさんのかっこうについて

まわし一つですもうをとることは、平安（へいあん）時代から続く伝統（でんとう）です。じゅんすいに、カ（ちから）をくらべるためのかっこうだと思います。ちなみに、普段は和服をきています。さむい冬にはコートもきます。

⑥かったときにもらうものについて

「懸賞（けんしょう）」といって、なかにはお金が入っています。幕内（まくうち）のとりくみには、お金をかけることができ、かったおすもうさんにわたされます。

⑦土俵がたかいことについて

土俵のたかさは、やく60センチです。これは①おすもうをみえやすくするため、②ケガをしないようにするための2つのいみがあるそうです。おきゃくさんは、みんな座ってみるので、うしろの人はみえなくなってしまう。そこでステージのようにたかくすることで、よくみえるようにしました。また、地面からのきよりをとることで、おちていくおすもうさんが受け身（うけみ）をとる時間をとることができます。さいきんでは、足からおちる人が多くケガが多くなってしまいますが、ほんとうはケガをふせぐためにたかくしています。

ながくなっちゃってごめんね。おすもうについて、わかってもらえたかな？

また、なにかわからないことがあったら、お手紙ください。少し時間がかかっちゃうこともあるけど、かならずこたえます。

あと、香芝市のとなり葛城市（かつらぎし）にある「相撲館（すもうかん）」がオススメです。土俵にあがるコーナーもあってすごく楽しいよ！！

ぜひ行ってみてください！！

公益財団法人 日本相撲協会
相撲博物館
〒130-0015 東京都墨田区横綱一丁目3番28号
電話東京(3622) 0366番
長瀬

トーナメント戦



トーナメント戦 決勝戦での出来事



- ・最後の決勝戦は、最後まで残ったTとAで行った。
- ・何度投げられても倒れないTを応援する声が起こる。
- ・次第に「Tがんばれ！」の一方的なTコールになる。
- ・試合はTが2勝1敗で勝つ。
- ・負けた悔しさよりも「Tコールに」Aが泣く

→教室で、Aの気持ちはどうだったのか？という話をした。

「投げられても倒れないTを応援する気持ちは分かるけど、自分がAの立場だったら、どう思うだろう？」

すもうの授業を終えて

- ・勝ち負けを巡る様々な思い(負けてすねる子や悔しくて給食を食べない子どももいた←そっとしておいた。)を経験をするのに相撲は適した教材でした。
- ・技術的な内容を一切教えていないのですが、低学年の間はそれは必要がないのではないかと思います。
- ・全敗の子どもがいました。勝つ喜びを味わわせたいと思ったのですが、他のやり方があったのかなかったのか?しかし、その子はすもうが楽しかったと言います。勝敗よりもすもう自体を楽しんでいたのかもしれない。
- ・今行っている教材にどのようなルーツがあり、どのような変遷を経て今に至るのか、実技と同時に文化的な内容を教えることはどの教材でも必要です。低学年のうちでもそれは可能だと考えるようになりました。
- ・「腰折田」からの相撲は、地域の教材化という視点も含まれています。



おわりに

すもうで投げ飛ばされて、顔には砂をつけたままうずくまっている男子がいました。ほんの数秒間、じっとして立ち上がろうとはしないのです。負けた悔しさ、投げられた痛さ、負けると言う事実、いろんな思いを受け止め、心の整理をしている時間でした。負けることとはどういうことなのかをしっかりと学んでいる時間だというふうに見えました。そして、顔は曇っていましたが、急に立ち上がってグループの所に戻っていきました。すもうをして、泣く子どもも続出しました。負けることを受け入れられない子どももいました。相手を罵る子どももいました。しかし、このような経験は、低学年で積極的に味わわせたい体験だと思いました。すもうがそれにふさわしい教材であると実践を通して感じました。

後日談

実践が終わって、相撲博物館の人にお礼の手紙を書きました。丁度、東京に出ることがあったので、両国国技館に行きました。春場所が行われていて、櫓とのぼりがたてられていました。すもうの授業の写真と、子どもたちが書いた手紙を直接渡すことができました。



奈良は相撲の発祥地

「腰折田」を始め、奈良県には相撲に関する史跡がたくさん残されています。

當麻－近鉄南大阪線の駅 當麻寺がある

當麻町相撲館「けはや座」⇒相撲資料館

蹶速塚 當麻蹶速の五輪塔 けはや座の横にある

相撲神社 桜井市穴師 歴代の横綱が訪問

十二柱神社 桜井市出雲 力士が狛犬を支えている

當麻町(今は葛城市)相撲館「けはや座」



近鉄南大阪線当麻寺駅から二上山の方に向かって歩いて行くと、当麻寺がありますが、この寺に行く途中に、相撲資料館「けはや座」があります。

ここには、本場所と同じサイズの土俵があります。力士の大きな草履があったり、相撲の歴史についてパネルで説明してあったり、相撲のいろんな知識を得ることができます。



「けはや座」の横
には、**躰速塚**
という石を積み
上げた**五輪塔**が
あります。ここに
當麻躰速が祭ら
れてあります。

躰速塚

當麻躰速の五輪塔

奈良は相撲の発祥地



天理市と桜井市の境に、相撲神社という小さな神社があります。神社の中央には、一辺が3～4m四方の土俵があり、土が盛ってあります。ここで当麻蹶速と野見宿禰が相撲をとったとされています。

4, 5世紀の古墳から出てくる須恵器に、相撲人形が発見されていることから、相撲は古くから行われていたことがわかりますが、日本書紀に書かれたことは、史実として認められていないために、当麻蹶速と野見宿禰のつた相撲も伝説や神話の上での相撲でしかないのです。

相撲神社(桜井市 穴師)



天理市と桜井市の境に、**相撲神社**という小さな神社があります。ここで当麻蹶速と野見宿禰が相撲をとったとされています。

四角い土俵があります。

日本書紀に書かれたことは、史実として認められていないために、当麻蹶速と野見宿禰のとった相撲も伝説や神話の上での相撲ではないのです。

野見宿禰塚跡

元々は、300mほど離れた所にあった塚から、明治期に移転しました。

(※野見宿禰が祭られている神社は全国に点在しています。島根県出雲大社にもあり、野見宿禰の出身を出雲の国とし、この地に移り住んだとする説もあります。)



十二柱神社



十二主神社にある五輪塔



野見宿禰は、桜井市出雲にある**十二主神社**にある五輪塔に祭られています。



十二主神社の狛犬は4人の力士に支えられている

相撲の歴史について

- 日本書紀に残る相撲(當麻蹶速、野見宿禰)
- 節会相撲(奈良～平安) 神事としての相撲
- 武家相撲(鎌倉～) 武芸としての相撲
- 勸進相撲(室町～) 寄進のための相撲大会から興行へ
- 人方屋 江戸までは土俵がない
- 相撲興業 江戸・京都・大坂での興行

節会相撲(奈良～平安)



節会相撲(想像図)

奈良・平安時代は、一年間の稲の出来具合を占う神事として行われたのが節会相撲でした。これは、年に一度天皇の前で行われました。一番古いものでは、734年(天平6年)7月7日に行われた相撲が記録に残っています。

この頃は、土俵はなかったので、今のように「押し出し」や「寄り切り」はなく、地面に手やひざをついたりすると負けになりました。

取組では、髪の毛をつかんだり、こぶしで相手を打つことなどは禁止されていましたが、足をかけたり、投げたりしてもよかったのです。今と同じように、判定に対しての「物言い」もあり、それでも決まらないときは天皇が判定したようです。

天皇の力が弱くなってくるとともに、節会相撲が衰えて、平安時代の終わりの1174年(承安5年)7月25日に行った節会相撲が、宮中行事としては最後になりました。

今日にも生きる節会相撲の考え

節会相撲は**作物の豊作を祈る占いで**、東西に分かれて勝負をします。東方が勝てば、田の稲が豊作で、海の幸が大漁。西方が勝てば、畑の物がたくさんとれ、山の幸が多くとれるとされていました。

四方に柱を立てて、その内側に円形の土俵を作るようになりました。この時、四方の柱に布を巻き、**四季の神**を祭りました。

北の柱は親柱と言い、白黒の布を巻いて、冬の神である玄武神を祭りました。東の柱は青い布で、春の青龍神。南は赤布で、夏の朱雀神。そして、西は白布で、秋の白虎神を祭っています。この4つの神は、**高松塚古墳などの壁画**にも登場しています。



今日にも生きる節会相撲の考え



4本柱があったころの国技館



1951年から吊り天井に

武家相撲

平安時代の終わりに武士が登場し、鎌倉時代から江戸時代にかけて、武士の世の中が続きます。鎌倉時代から室町時代にかけて、**武芸の一つ**として用いられたのが相撲でした。

相撲の稽古は武士にとっては、弓や馬に乗る稽古と同じくらい大切なものとされました。相撲会は武士の間で盛んに行われて、将軍は、しばしば相撲会を開きました。武士の間で行われていたこれらの相撲を**武家相撲**と言います。

勸進相撲

その後の室町時代になると、武士の中には、各地を回って相撲を行い、その力を自慢する武士も現れました。地方行くと、その地方を治める領主に、「神社や寺を建てたり、修理したりするために、お金(寄付金)を集め相撲を行ってもよい」という許可をもらって**相撲会**を開きました。

寄付を集める**武士(勸進)**を東、**地元の人**を西として、**地元の人と相撲を取ります**。これは、節会相撲の東西対抗のしきたりを守っています。

やがて、室町時代の終わりには、お金もうけのための相撲が行われ、神社や寺に関係なく、相撲が行われるようになります(相撲興行)。相撲を行う一団も大規模になり、人の集まる大都市で相撲興行が開かれます。

人方屋 ー土俵の話ー

江戸時代までは、力士や見物人が7～8mの円を作って、相撲の取組はこの**円の中**で行われていました。相手を倒すか、周りの人の中に押し込むかすると勝ちになったのです。この人で作った土俵の境界は、「**人方屋(ひとかたや)**」と呼ばれていました。人垣のなかに押し込んだ方が勝ちでした。



四角い土俵

—土俵の話—

「人方屋」を改良し、人垣に代わる境界として考えられたのが、俵を使った土俵でした。四隅に柱を立てて綱をはり、柱の間に俵を置いて、土俵にしました。土俵は今のよう**に○の形ではなく、四角い土俵**でした。





江戸時代の抱え力士

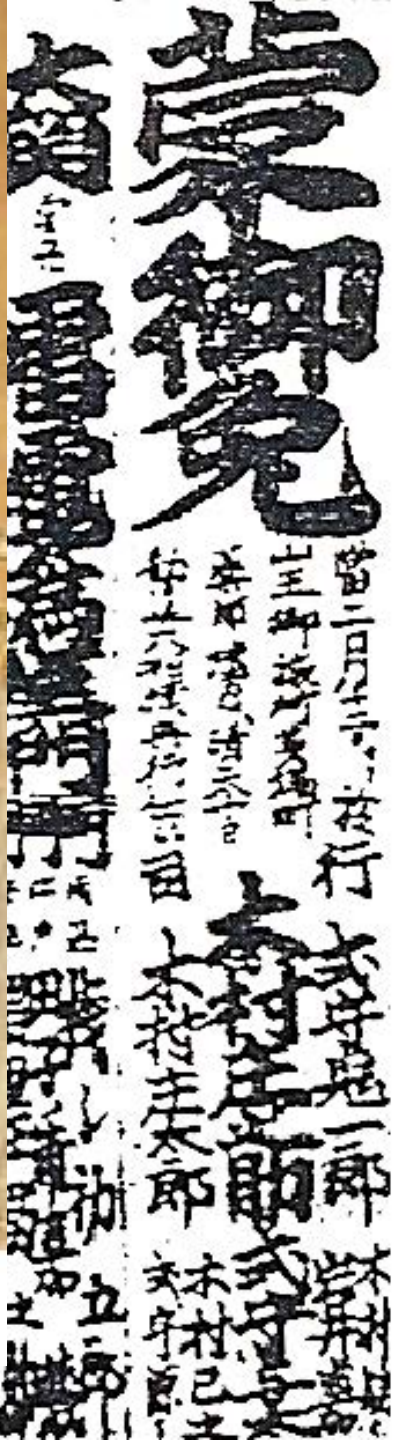
これは、江戸時代の番付です。「蒙御免」は現在の番付表にもあり、「ごめんをこうむる」と読みます。勧進相撲が盛んになると同時に、奉行所などの監視も厳しくなり、どこでも相撲興行をやるのも良いというわけではなく、願書を出して、許可を得る必要があったのでした。

許可がおけると、相撲の場所が始まる前に「御免札」が相撲場の近くに立てられました。この習慣は現在も残っており、本場所が開かれる約一ヶ月前に「御免札」が立てられます。

江戸時代の力士というのは、今のように部屋制度はなく、力士は全て各地の大名に抱えられていました。大名の下で稽古を積んで、勧進相撲に出ることになります。



雷電為右衛門の浮世絵





御免札

「蒙御免(ごめんこうむる)」と墨で書かれた高さ約4メートルの木札で、江戸時代の勧進相撲で寺社奉行が興行の許可を与えた印が起源とされる。
(春場所・大阪)

横綱のおこり

2021年7月21日、照ノ富士は第73代横綱となりました。この73代と言うのは、初代を明石志賀之助、2代綾川五郎次、3代丸山権太左衛門、4代谷川梶之助、5代小野川喜三郎…と数え、69代白鵬…73代照ノ富士となります。しかし、初代から3代までは、確実な史料がなく、1789年4代谷川、5代小野川の2人が正式に認められた正式な横綱とされています。

横綱という呼び方は、江戸時代から使われていましたが、江戸から明治の半ばまでは、一番上の地位ではなく、大関の中で一番強いとされる者とされ、番付ではあくまでも大関でした。(雷電為右衛門の番付も大関でした。)

番付に横綱の文字が掲載されるようになったのは、1890年(明治23年)西ノ海が横綱になった時のことでした。しかし、「大関」の下に小さく「横綱」と書いてあり、続いて、1909年に横綱を最高位と決まった後でも、同じような表記の仕方でした。横綱という地位はあったものの、大関が最高位だと考えられていたのです。

1943年1月場所のときに、初めて「横綱」と「大関」とを並べて書く、現在の形式が始まり、横綱が最高の地位となったのでした。昔から行われてきた相撲では、意外に新しいことなのです。



横綱白鵬の土俵入り

明治～現代の相撲

明治の初めは、力士たちにとって、とても苦しい時代でした。江戸時代は長い間、大名に抱えられていましたが、明治になると、大名は財政的に苦しくなり、力士の世話も出来なくなってきました。

その上、西洋の文化を取り入れようとした文明開化の影響を受け、人前で裸で取る相撲が野蛮であると受け止められ、力士たちが次第に仕事を失っていくのです。江戸、大坂、京都の三都では、相撲は行われましたが、明治以降は、さびれる一方で、特に、京都、大坂では相撲も活気を失っていました。

明治～現代の相撲

このような状況の中、現在の日本相撲協会の元となる組織作りを進めた人がいました。**高砂浦五郎**(1839年-1900年)です。元は高見山という東京相撲所の力士でしたが、東京相撲所を「東京相撲協会」と改め、相撲の制度や、力士の組織、行司の仕事など、細かいところまで決め、相撲の立て直しを進めたのでした。観客に対しても、1872年(明治5年)には、**女性の見物が許される**ようになりました。

こうして、相撲は勢いを取り戻しました。そして、1926年(大正元年)、東京、大阪にあった今までの相撲協会が解散し、「大日本角力協会」として、一つの組織となりました。現在の「**日本相撲協会**」になるのは、1958年(昭和33年)のことです。



高砂浦五郎